

鈴鹿医療科学大学の活性化について

鍼灸学科 高木 久代
医療栄養学科 長村 洋一
鍼灸学科 山本 晃久

鈴鹿医療科学大学は2016年に創立25年を迎え、今後日本で最初に設立された医療系総合大学としてさらに前に進まなければなりません。前進するには大学をさらに活性化させる必要があります。

現在、鈴鹿医療科学大学は各医療専門分野の教育に加え、医療人としての基礎知識を獲得させるために医療人底力教育プログラムを入学後すぐ、1年生全員に実施しています。このプログラムにより、1年生たちは他学科の学生との交流、他の医療業種の知識も獲得することができます。しかし、医療人底力教育は1年生に集中しているため、学年を経るにつれ、各学科間、学年間の結びつきが弱くなっていきます。今日の医療機関ではチーム医療が実践され、チーム医療に参加する時、鈴鹿医療科学大学卒業生達は他の職種理解、ロイヤリティをもち、社会に貢献できることは大きな強みになります。医療人としての結びつきを在学中に作るために、大学では講義以外に他学科、又は学年を超えた交流が必要です。学生間の交流のためには大学全体での取り組みが大きな役割を果たすと思われまます。

大学全体としての取り組みについて、学友会執行委員学生全員と長村教授、山本教授、学生課田中課長、金子氏と高木で会議を開催し、参加学生すべてから大学についての意見、大学祭、スポーツ大会などについて聞き取り、大学祭、駅伝大会、スポーツ大会についての現状と改革案を次のように作成し、提案させていただきます。

1) 鈴鹿医療科学大学大学祭（碧玲祭）について

毎年11月第2土曜日、日曜日に千代崎キャンパスで開催。

(大学祭運営は学友会・大学祭実行委員会が中心となり開催をしている)

現状

- ・毎年学生の参加、模擬店が増えにぎやかになっている。
- ・アンケートによると「すべての学科が医療・福祉専門であるため学科発表を楽しみにしている来訪者が多い」ことが分かる。
- ・学科発表に関しては教員の指導が必要にもかかわらず学科間の教員の熱意が異なり、以下のような問題点が学生から指摘された。

医用情報工学科：教員が全く関与せず1年生に任せ、ゲーム遊びする。

医療福祉学科：教員が「勉強以外すべて遊び」と指導し、教授、准教授が指導せず助教にまかせている。

薬学部：薬学研究部があり、その部に所属している学生だけが大学祭に参加する。
参加学生はまじめに発表している。

他学部、学科：程度の差があるが、教員（教授、准教授、助教）が係わり、学科
発表を指導している。

特に医用情報工学科でこの状態は長年続いていると強い指摘があり、改善する必要がある

改革案

1. 開催場所：千代崎キャンパス

部屋数、使いよさ、真ん中に広場があり、人が集まりやすい。

2. 学科発表：各学科教員が指導し（教授を含め）学科で特色ある学科発表をする。発表内容について責任者（教員・学生）を決め事前に実行委員会に提出し、教員も加わってその書類に基づき、学友会で学科予算を決定する。なお、内容によっては実行委員会から追加、削除、改変などを行うことがある。

3. 参加者：授業を削り大学祭を開催しているのであるから基本的に学生、教員全員参加を原則とする。

4. オープンキャンパス同時開催：アンケートに「各学科のことをもっと知るようにことをしてもらいたい」とあるため、大学祭と併用し簡単なオープンキャンパスを行い高校生、中学生、小学生に鈴鹿医療科学大学の存在、教育内容、楽しい雰囲気を理解してもらう。

5. 大学祭の開催時期の変更：5月又は6月開催

三重県内の大学の大学祭はすべて11月に行われている。11月開催の大学祭に来た学生は大学の魅力に気が付いても入試に結びつくことが難しい。2018年度から5月開催（名古屋大学は5月開催）に変更し、同時にオープンキャンパスを行い各学科の紹介、学生達の学科発表、大学の楽しさを高校生、さらに中学生に理解していただく。

5月開催の学友会・大学祭実行委員の選出時期を考慮する必要がある。

2) 駅伝大会または大学スポーツ大会について

現状

2014年度より鈴鹿医療科学大学白子キャンパスで学生・社会貢献担当副学長・長村洋一教授の指導のもと、学生課を中心に開催している。毎年参加人数が増えている。

2016年度には優勝、準優勝トロフィーも購入した。

このような状態の中、2016年度に底力教育推進センターは独自に大学主催と位置づけ「スポーツ大会」を開催し、今後駅伝大会とこの大会を併せた大会の検討を今回要請されている。

駅伝大会は3年の実績を経てその任意行事から大学行事への移行に関し、学生、教

職員の要望が学内全体からコンセンサスを得られる状態にある。その一方で、底力教育のチーム医療のためのコミュニケーション能力養成に非常に良い機会であるとセンター長自身が仰っている底力教育を受けている学生の参加がほとんど得られておりません。

このような現状の中で学生たちが勝手にやって面白かった、楽しかったから駅伝と併せてスポーツ大会にするということは、学生課が担当している駅伝で手一杯の状態であり、むしろまず駅伝大会の充実を図りながら今後の方向を探るべきとの結論になりました。

改革案

鈴鹿医療科学大学白子キャンパスでの駅伝大会を大学全体の行事に位置づけ、全学生が参加し、鈴鹿医療大学駅伝大会を大学に名物行事にするまで充実させる。その後スポーツ大会など他の行事も考える。

1. 駅伝大会を大学行事とする。
2. 各学科学生、教員が参加し、学科対抗、学年対抗、学部対抗、他お楽しみチーム対抗、教員対抗、クラブ対抗を設置する。
3. 今までのおやつ（お汁粉）に加え、お昼、午後1時ごろにカレーランチを参加者に提供する。カレーは大学食堂で大学関係者が用意する。
4. 午後2時から表彰式を行い、優秀チームをたたえ、トロフィー、参加賞などを配布する。
5. 教員間の協調のため駅伝大会実行スタッフは各学部又は学科が当番制で責任を持って運営する。大学（学生・社会貢献担当副学長、学生課、学友会）は実行スタッフの援助をする。

結論

1. 千代崎キャンパスで「大学祭」、白子キャンパスで「駅伝大会」を開催する。

さらに大学全体で取り組むべき行事として認識し、学生全体の参加、各学科教員の積極的な参加を求める。

一部教員からは「大学祭などは教員が関わらず学生主体で何事も行う」との主張もあるが、今日の日本の大学では「学生・教員が一体となって教育を行う」事が求められている。鈴鹿医療科学大学の建学の精神「科学技術の進歩を真に人類の福祉と健康の向上に役立たせる」、教育の理念「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を実践し、社会に貢献できる心豊かな学生を育成するため、学業だけではなく色々な経験をして「気づき」ができる学生を教員も積極的に共に行動することにより、教育・育成することを希望する。

2. 学生の行事参加等へのモチベーション向上のための「サムスポイント」の設置。

卒業時に学業優秀学生に対し、理事長賞、学長賞、各学科代表が選出されている。そして、鈴鹿医療科学大学「ディプロマポリシー」の①に「医療人として社会で自立するための底力となる汎用的技能、**態度、常識、健康な心と体を備えている**」とある。

大学では勉学だけではなく大学内の活動に参加し幅広い経験を積み、医療現場で「気づき」ができる医療人になる準備をすることが重要である。そのため大学祭、ボランティア活動、学友会執行部、クラブ活動、他大学内活動に参加し、いろいろなことを経験してもらいたい。大学内（大学外）の活動に参加した学生には、その都度「サムスポイント」を与え、卒業時に「サムス賞」を与える。さらに就職時にも「サムスポイント」優秀者には学長より推薦状を出すこととする。

以上の案により、学生・教員・事務職員が一体となり鈴鹿医療科学大学を愛し、魅力のある大学にしていきたい。又学生達は学業と共に大学内、外活動に積極的に参加し、多くの経験を積むことにより幅広く活躍できる医療人として成長してもらいたいと切に願います。